ミカワシオガマ

Pedicularis resupinata L. subsp. *oppositifolia* (Miq.) T.Yamaz. var. *microphylla* Honda

【評価理由】

個体数階級 2、集団数階級 2、生育環境階級 4、人為圧階級 3、固有性階級 4、総点 15。本地域の湧水湿地に固有の植物で、開発や園芸目的の採取により減少傾向が著しい。

【形　態】

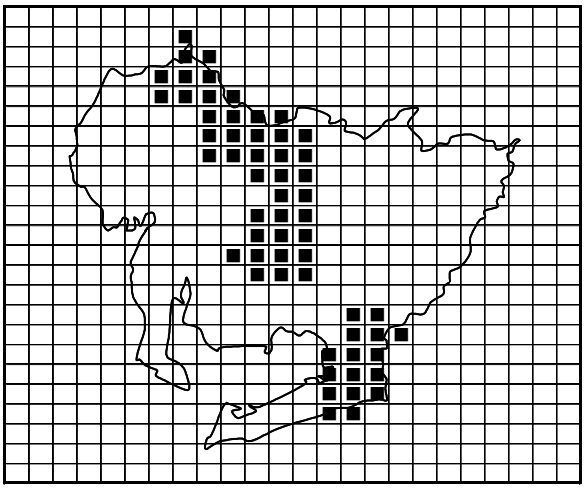
多年生草本。シオガマギク（前頁）の変種とされており、それから葉が小さく長さ 10～20mm、幅 4～7mm で、多数つき、ほとんど互生することで区別される。「花冠上唇の先が特に短い」と記述されている文献もあるが、花部の形態はシオガマギクと異ならない。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：15 豊橋北部（小林 65375, 1998-10-18)。西：23 藤岡（芹沢 53939, 1989-10-13)、24 豊田東部（村松正雄 25441, 2010-10-11)。尾：37a 瀬戸（塚本威彦 2568, 1997-10-16)、37b 尾張旭（飯尾俊介 64, 1993-10-10)。16 豊橋南部（野依町, 芹沢 57911, 1990-10-23)、29 岡崎北部（小呂町, 芹沢 50877, 1988-10-22)、45 犬山（善師野, 芹沢 53734, 1989-10-6）にもあったが絶滅した。9 鳳来南部（吉川峠, 加藤等次 s.n., 1958-10-12)、31 幸田（須美, 瀧崎吉伸 382, 1978-10-22)、35 西尾北部（室場村茶臼山麓, 石川 s.n., 1949-10-15, CBM 114396, 実際は幸田町側かもしれない)、38b 日進（愛知池, 井波一雄 s.n., 1961-9-25, CBM136206）で採集された標本もある。27 みよしにもあったらしいが、あったという湿地はすでに破壊されており、確実な資料も残されていない。11 作手にはシオガマギクとの中間型（標本：芹沢 57422, 1990-9-28）がある。

要配慮地区図



【国内の分布】

本州中部（愛知県、岐阜県)。広島県からの報告は誤りである。

【世界の分布】

日本固有。

【生育地の環境／生態的特性】

湧水湿地の日あたりのよい場所や林縁に生育する。

	山 地	丘 陵	平 野	海 浜
森 林				
草･岩				
湿 地		○		
水 域				

【現在の生育状況／減少の要因】

豊田東部にはまだ比較的多い場所が残されていると思うが、他はいずれも個体数が少なく、危機的な状況である。幸田と犬山では道路建設に伴う湿地の破壊、岡崎北部では園芸目的の採取により絶滅した。

【保全上の留意点】

栽培は困難なはずであるが、それでも花が美しいため、しばしば採取される。カメラマンや観察者による踏み荒らしもある。分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。

【特記事項】

基準標本は酒井忠壽氏が豊橋市岩崎町で 1938 年 10 月 19 日に採集されたもので、東京大学総合研究博物館（TI）に保管されている。国の絶滅危惧Ⅱ類という評価は、広島県のものを含めているからかもしれない。

【関連文献】

保草本Ⅰp.134, 平草本Ⅲp.116, 平新版５p.158, 環境省 p.500, SOS 旧版 p.80＋図版 14, SOS 新版 p.91,93.